
日本地球化学会ニュース

No .168

2002 .2 .8

主な記事

● 学会記事

- 2002年度日本地球化学会年会のお知らせ(1)
- 評議員会，各種委員会議事録

● その他の研究助成，シンポジウム，人事公募等の各種情報

現在，日本地球化学会のホームページを国立情報学研究所ホームページ内の学協会情報発信サービスの中で公開しております。研究助成，シンポジウム，人事公募等の各種情報は随時更新しておりますのでそちらをご覧ください。

URL アドレスは，<http://wwwsoc.nii.ac.jp/gsj2/index.html> です。

次号より編集担当者が変わります。最後のページをご覧ください。

2002年度日本地球化学会年会のお知らせ⁽¹⁾

主催：日本地球化学会

会期：2002年9月26日(木)～9月28日(土)

[ただし、25日(水)午後から一般の方を対象とした公開講演会を開催します。]

会場：鹿児島大学郡元キャンパス総合教育研究棟（鹿児島市）

内容：一般講演，ポスターセッション，課題討論，学会賞等受賞講演。総会，日本地球化学会創立50周年記念事業と懇親会は9月27日(金)午後開催の予定です。

課題討論の内容とコンピーナーは次号のニュースに掲載します。

なお、今回の年会は日本地球化学会50周年記念年会となります。ふるってご参加下さい。

講演申し込み締め切り：2002年6月28日(金)（必着）

講演要旨の締め切り：2002年7月31日(水)（必着）

参加申し込み締め切り：2002年8月30日(金)（必着）

申し込み方法等の詳細は、次号のニュースをご覧ください。

年会連絡先：

〒890 0065 鹿児島市郡元1丁目21-35

鹿児島大学理学部地球環境科学科内

2002年度日本地球化学会年会準備委員会

坂元隼雄

Tel：099 285 8110，Fax：099 259 4720

E-mail：sakam@sci.kagoshima-u.ac.jp

2001年度第4回日本地球化学会評議員会議事録

日時：2001年10月20日(土) 17：00～18：00

場所：学習院大学創立百周年記念会館内会議室

出席者：松久幸敬会長，野津憲治副会長，海老原充，蒲生俊敬，齋藤和男，坂田将，佐竹洋，田中剛，富樫茂子，中井俊一，野崎義行，野尻幸宏，益田晴恵，松田准一，村江達士，吉田尚弘（以上現評議員），清水洋，北逸郎，長尾敬介，佐野有司，和田秀樹，鍵裕之，南川雅男，奈良岡浩，川幡穂高，米田成一（以上次期評議員）

1．2001年度第3回評議員会議事録の承認

2．報告事項

2.1 庶務：なし

2.2 会計：なし

2.3 編集

2.3.1 GJ（松田評議員）：第1回GJ論文賞は2002年掲載論文を対象とし、2003年に授賞する。アナウンスを学会ホームページ、ニュース（No.167）、EOS、Geochemical Societyのニュースに掲載する予定。GJ誌への二重投稿問題に関する対応を編集委員会で協議した結果、今後5年間は問題の著者（共著も含めて）からの論文は受け付けないことを決めた。

2.3.2 地球化学（蒲生評議員）：編集委員会で今後50周年記念特集号の内容を検討する。

2.3.3 ニュース（中井評議員）：ニュースNo.167は12月下旬に発行予定で、原稿締切は11月中旬。ニュースNo.168は来年2月か3月に発行予定で、原稿の締切はニュースNo.167の最後に掲示する。

2.4 行事（吉田評議員，野津副会長）：2003年度年会の開催方法に関するアンケートを実施し、回収作業中。19日に回収したアンケートの集計では年会をゴールドシュミット国際会議とつなげるという案に賛成の人が多い。

2.5 会員：なし

2.6 委員会：なし

2.7 学術会議：なし

2.8 連絡会等：なし

3．審議事項

3.1 次期評議員会への申し送り

1) 50周年記念事業への対応：50周年記念事業実行委員会を設置して検討してほしい。

2) Goldschmidt 2003の準備：2003年までゴールドシュミット準備基金に毎年30万円積立ててほしい。昨年度分から積み立てを開始している。

3) 2003年度年会開催方法の検討：アンケートの結果を参考に検討を進めてほしい。

4) 地球惑星科学関連学会連絡会：日本地球化学会は2002年度の連絡会会長を出す予定。

5) IUGG 2003札幌大会の共催：2002年度の分担金2万円が求められる予定。

6) 会員数増加方策の検討：ここ2年ほど除籍を行い、会員数が頭打ちとなっている。

7) ホームページの充実とMLなどITの活用：外部委託の可能性も含めて検討してほしい。

8) Webによる年会登録システムの確立：これま

では年会準備委員会がその都度対応してきたが、今後学会としてシステムを確立する方向で検討してほしい。

- 9) 鳥居基金関係の規程の整備：早急に規程を作成することが必要。
- 10) GJ 編集体制の検討：インパクトファクターの上昇もあり、投稿数が急激に増えてきたため、編集体制の見直しについて検討してほしい。

第18期第3回地球化学・宇宙化学 研究連絡委員会議事録

日時：2001年11月8日(木) 13:30~16:30

場所：日本学術会議第4部会会議室(6階)

出席者：田中剛委員長，青木謙一郎，日下部実，清水洋，下山晃，留岡和重，中澤高次，藤原顕，松田准一 各委員

報告事項

1. 学術会議関係(青木委員より)
 - 1.1 第136回総会(10月16, 17日開催)
 - (1) 国際情報ドキュメンテーション連盟からの脱退の承認。
 - (2) 「データベースに関して提案されている独自の権利についての見解」(声明)について。
著作権に加えて独自の権利を導入することは、学術の発展の観点から反対であり、独自の権利の法制化の動向には慎重な対応が必要であることを表明する。
 - 1.2 第4部会(7月12日開催)
 - (1) 天文学研連「電波天文周波数小委員会」の新規招集申請を承認した。
 - (2) 平成13年度に本学術会議主催講演会の企画案の提出について(回答)
「なぜなぜ“宇宙と生命”」の講演会案の提出を了承した。
 - (3) 日本学術会議会員推薦管理委員会委員候補者の推薦について
田丸謙二，伊達宗行，平本幸男，榎根勇の諸氏を推薦した。
 - (4) 研連の見直しについて
各研連からの7月締切りのアンケートの回答が配付され、新しくつくるべき研連のリストについても第4部会に配付し、拡大役員会と次回の第4部会で検討することとした。

1.3 第4部会(10月15, 16日開催)

- (1) 岩松暉会員の就任
米倉伸之会員の死去にともない後任に岩松暉氏(地質科学総合)が、学術会議会員に就任した。
 - (2) 平成15年度科学研究費補助金に係わる「時限付き分科細目の設定」について(検討依頼)
複合領域及び各部ごとに希望があれば1件申請が可能である。地質科学分野は最近申請していない。
 - (3) 平成13年度代表派遣会議及び派遣候補者の追加推薦について
希望があれば、11月22日(木)までに書類の提出。
 - (4) 平成14年度代表派遣会議及び派遣候補者の推薦について
平成13年11月30日(金)までに書類提出すること。来年度は国際鉱物学会(IMA)が開催される。
 - (5) 研連見直しについて
第4部の現存するすべての研連が、存続の意義を記載した申請書を提出する(推薦研連についても対象とする)。第4部会の議論をもとにし、研連見直しグループにて検討し、12月に第4部研連の新しい案をつくる。
 - (6) 第136回総会「総会議案」について
鉱物研連鉱床専門委 榎原良道委員長より「大学の構造改革の方針(遠山プラン)に対する評価と対応」について提起されたが、第4部では取り上げないこととした。
2. 第2回理学総合連絡会議/分科細目見直し案(田中委員長より)
科学研究費補助金分科細目見直し案が示され、案についての意見を9月27日締めきりで依頼された。関連分野では、分科名が地球科学から地球惑星科学へ、細目名が地球化学から地球宇宙化学へと変更されているが、実質的に大幅な変更はないと考えられるために、異論は唱えなかった。本研連に直接の関係はないが、複合新領域等で、環境学や自然災害などの強化が目される。
 3. 第2回地質科学総合研究連絡委員会(田中委員長より)
米倉伸之会員の死去にともない後任に岩松暉氏が、学術会議会員に就任した。
 4. 雑報告(田中委員長より)
 - (1) 研連活動報告 9月3日に提出した。
 - (2) 2003 Goldschmidt 国際会議の準備状況

審議事項

1. 研連見直し/再編と存続理由書の提出
委員長，幹事を中心として案をとりまとめる。
2. 環境学における地球化学分野とカリキュラムの位置付け
第2回の本委員会で議題として審議した，環境学への再編成が見られる中で，再編後の地球化学分野とカリキュラムの位置付けを検討するためにアンケートを実施することとした。
環境学関連の学科・学部・専攻・研究科へのアンケートを実施し，それを受けてさらに地球化学会会員へのアンケートを実施する。アンケート案を委員長が作成する。
3. 日本学術会議研究連絡委員会（本研連）のホームページ作成
日本地球化学会が主体部を作成する。研連構成学会からの「地球化学宇宙化学」に関連する数行メモと学会HPへのリンク先をのせる。

次回，第18期3回の委員会は2002年2月28日に開催予定である。

以上

第50回質量分析総合討論会(2002)のお知らせ

URL : <http://wwwsoc.nii.ac.jp/mass/Japanese/Conference/>

会期：2002年5月15日(水)～5月17日(金)

会場：京都工芸繊維大学(松ヶ崎キャンパス)

〒606 8585 京都市左京区松ヶ崎御所海道町

主催：日本質量分析学会

共催学会：日本地球化学会他

内容：

討論主題 質量分析に関わる話題全般

特別講演 1. 中西香爾教授

Department of Chemistry, Columbia University

2. Prof. R. Graham Cooks

Department of Chemistry, Purdue University

3. 甘利幸子博士

Laboratory for Space Sciences, Physics Department, Washington University

シンポジウム 依頼講演のみで構成します。

メインテーマは、「マスマス広がるMS～MSはどこまでやれマスか～」です。

近年，質量分析の基礎であるイオン化および分析計は進歩し，質量分析を用いる研究領域は，物理・化学・地球化学・惑星科学からバイオリジカルの分野にまで拡がり，質量分析の有用性は増えています。

今回は，それぞれの分野にたずさわっておられる方々に，講演をお願いいたしました（ホームページを参照してください）。

懇親会：2002年5月16日(木) 20：00頃～

京都ガーデンパレス

発表申込締切：2002年1月18日(金) 必着(受付終了)

予約参加登録締切：2002年4月15日(月)

参加登録方法：上記ウェブページにアクセスのうえ，1名ごと指示にしたがって入力し，登録してください。

実行委員長：京都工芸繊維大学繊維学部応用生物学科
化学生態学研究室

山岡亮平

〒606 8585 京都市左京区松ヶ崎御所海道町

Tel/Fax : 075 724 7787

E-mail : yamaoka@ipc.kit.ac.jp

第39回理工学における同位元素・放射線研究発表会のお知らせ

上記発表会が以下のように開催されます。

会期：平成14年7月3日(水)～7月5日(金)

会場：日本青年館(東京都新宿区霞岳町15番地)

参加費：2,000円(学生無料)，懇親会参加費2,000円，
要旨集代金4,000円

一般発表申込締切：平成14年2月28日(木)(受付終了)

要旨集原稿締切等：平成14年4月15日(月)

詳しくは，日本アイソトープ協会ホームページ
(<http://www.jrias.or.jp/>)をご覧ください。

第4回国際レルソライト会議 (4th International Workshop on Orogenic Lherzolite and Mantle Processes)

日程：2002年8月26～9月3日(うち3日間は室内会議，前後に幌満かんらん岩巡検およびポスト会議巡検)

会場：北海道様似町公民館

造山帯に産する超塩基性岩体，オフィオライト，玄武岩中のゼノリス等マントル起源の物質に関する観察・データはもとより，岩石学，鉱物学，地球化学，構造地質学，地球物理学，テクトニクスなどの様々な角度からマントルで起こっている物理化学的プロセスを議論する，極めて学際的な国際研究集会です。これまで，第1回は1990年にフランスのモンペリエ，第2回は1995年にスペインのグラナダ，第3回は1999年にイタリアのパビアで行われました。出席者は毎回100～120名と比較的小規模ながらマントルプロセスに関して活発な議論が繰り広げられています。

セカンドサーキュラーおよび参加登録を含めた詳細については，公式ホームページ <http://ganko.eps.nagoya-u.ac.jp/iec2001/index.html> をご覧ください

い。4月30日が参加登録およびアブストラクト提出の締切です。多数の方のご参加をお待ちしています。

組織委員会：小畑正明，荒井章司，新井田清信，小澤一仁，高澤栄一，高橋奈津子，澤口隆，森下知晃，M. A. Menzies，J. -L. Bodinier

事務局：京都大学理学部地質学鉱物学教室

問い合わせ先：

小畑正明（組織委員長，京都大学理学部，Obata@kueps.kyoto-u.ac.jp，Tel：075 753 4155）または高澤栄一（庶務幹事，新潟大学理学部，takazawa@geo.sc.niigata-u.ac.jp，Tel：025 262 6114）

ニュースへ記事やご意見をお寄せください

次号より、ニュース担当幹事が下記に変わります。今後とも従来と同様、皆様の情報・原稿をお待ちしています。地球化学に関連した研究集会、シンポジウムの案内、人材募集、書評、研究機関の紹介など何でも結構です。編集の都合上、電子メール、フロッピー（マックもしくはDos/Vいずれでも結構です）での原稿を歓迎いたしますので、ご協力の程よろしくお願いいたします。次号の発行は2002年6月初旬頃を予定しています。ニュース原稿は4月下旬までにお送りいただくよう、お願いいたします。また、ホームページに関するご意見もお寄せください。

次号からの編集担当者

米田成一

〒169 0073 東京都新宿区百人町3 23 1
国立科学博物館理工学研究部

Tel : 03 3364 7142, Fax : 03 3364 7104,

E-mail : s-yoneda@kahaku.go.jp

高橋和也

〒351 0198 埼玉県和光市広沢2 1
理化学研究所加速器基盤研究部

小林貴之（ホームページ）

〒156 8550 東京都世田谷区桜上水3 25 40
日本大学文理学部

この号の編集担当者

中井俊一

〒113 0032 東京都文京区弥生1 1 1
東京大学地震研究所

Tel : 03 5841 5698, Fax : 03 5802 3391,

E-mail : snakai@eri.u-tokyo.ac.jp

鍵 裕之

〒113 0033 東京都文京区本郷7 3 1
東京大学大学院理学系研究科附属地殻化学実験施設